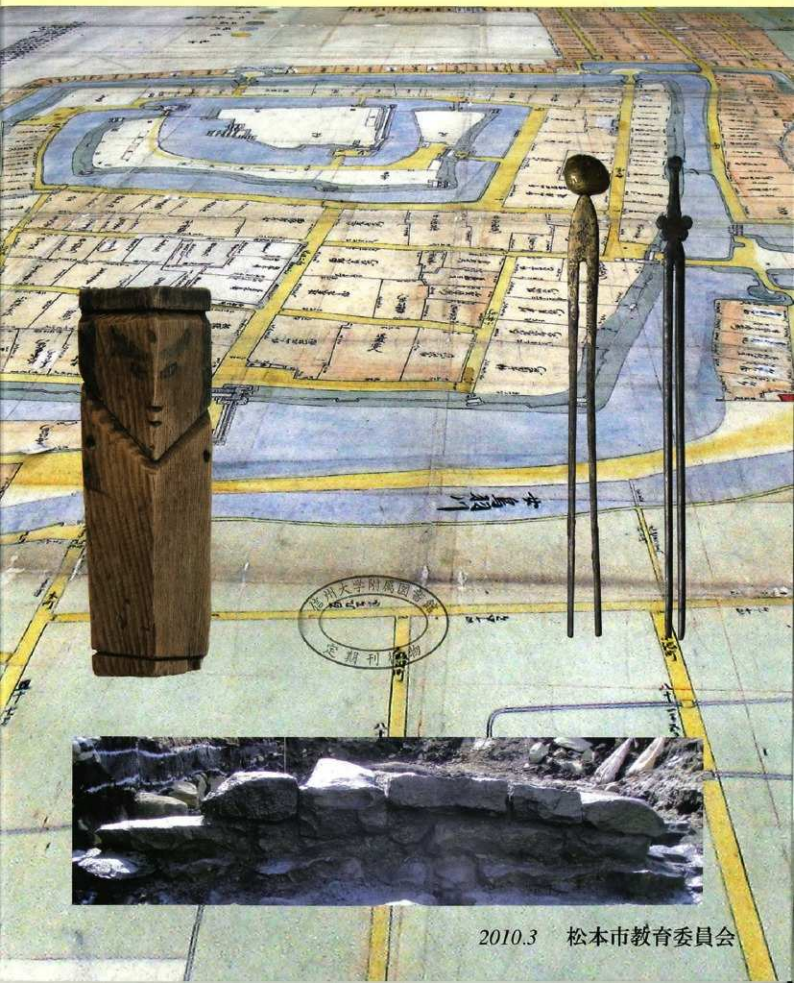
松本市文化財調査報告 No.202

長野県松本市

*IIDAMACHI*

# 松本城下町跡 飯田町 第1次発掘調査報告書



信州大学附属図書館
定期刊行物

*2010.3* 松本市教育委員会

# 例 言

1　本書は、平成20年4月14日～6月13日に実施された松本市中央2丁目9番8号に所在する松本城下町跡飯田町の緊急発掘調査報告書である。

2　本調査は、藤森病院建替え工事に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査を実施し本書の作成を行ったものである。

3　本書の執筆は、Ⅰ：事務局、その他を小山貴広が行った。

4　本書作成にあたっての作業分担は、以下のとおりである。

遺物洗浄・注記・接合：白鳥文彦、前沢里江　土器・陶磁器実測、トレース：八板千佳、竹平悦子　木器実測、トレース：久根ド三枝子　石器実測、トレース：内田陽一郎、荒井留美子　金属器実測、トレース：洞澤文江　遺構図トレース：村山牧枝　遺物写真：宮嶋洋一　総括・編集：三村竜一、小山貴広

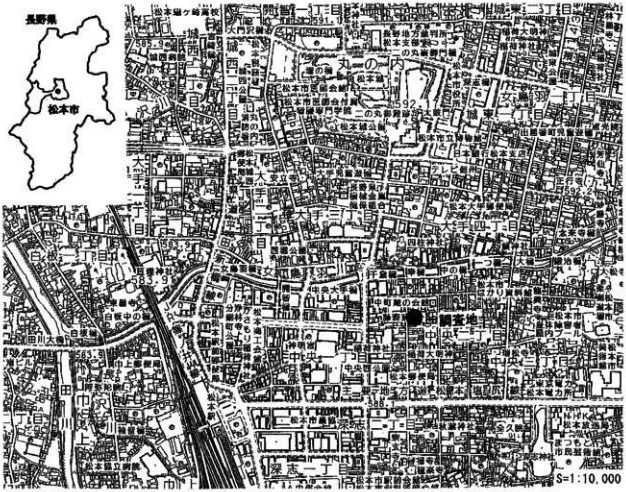
5　本書で使用した略語は以下の通りである。

第○検出面→○検　土坑○→土○　間知石列○→間知○

6　本書中で示した測量方眼は任意の方向である。また、図中に示す方位記号は真北を示している。

7　陶磁器実測図中に示す三角印は釉薬の有無・種類等の境目を示している。

8　本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は、松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823　長野県松本市大字中山3738-1　℡ 0263-86-4710　Fax 0263-86-9189）に収蔵されている。




第1図　調査地の位置

# Ⅰ　調査の経緯

## 1　調査に至る経緯

松本城下町跡は江戸時代において史跡松本城を中心として広がっていたとされる松本城下町の範囲を遺跡としたものである。これまで市街地開発事業などに伴って本町・東町・伊勢町など多くの箇所において発掘調査が行われ、多くの成果をあげてきた。

そのような中、長野県松本市中央2丁目において、藤森病院による病院建替え工事が計画された。事業地は松本城下町跡飯田町に該当しており、近世を中心とした埋蔵文化財を包蔵する可能性があったため松本市教育委員会で試掘調査を実施して埋蔵文化財の残存状況を確認することとなった。試掘調査は平成20年3月14日～3月18日にかけて松本市教育委員会によって実施され、予定地内に近世に属すると思われる整地層と遺物が確認された。これを踏まえ事業者と保護協議を行った結果、掘削等によって破壊が懸念される範囲について発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなった。そのため事業者である藤森病院と松本市長菅谷昭との間に平成20年4月10日付けで発掘調査業務委託契約が交わされ、松本市教育委員会が発掘調査を実施することとした。現地での発掘調査は平成20年4月14日～6月13日にかけて行った。調査終了後平成20年6月17日付で長野県教育委員会に終了報告書、同日付で松本警察署長あてに埋蔵物発見届けを提出し、平成20年6月27日付で長野県教育委員会から埋蔵物の文化財認定を受けた。

出土遺物及び現場測量図・写真等の整理作業と本報告書の作成作業は、現場作業に引き続き松本市立考古博物館において行い、本報告書を作成した。また、劣化が懸念される木製品2点(7･9)について株式会社京都科学との間に業務委託契約を交わし、糖アルコール含浸法を用いて保存処理を行った。

## 2　調査体制

調 査 団 長：伊藤　光（松本市教育長）

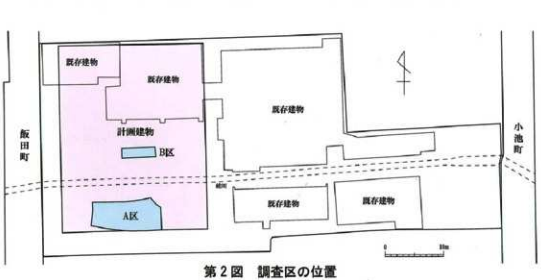
調 査 担 当：三村竜一、小山貴広

調　査　員：森　義直、宮嶋洋一

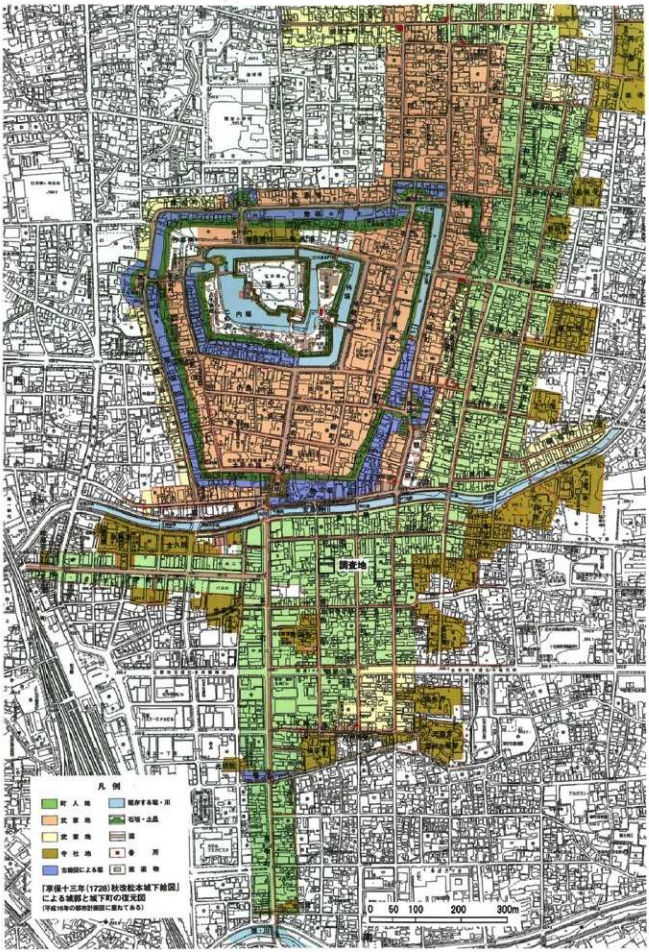
協　力　者：荒井留美子、井口方宏、折井完次、久根下三枝子、白鳥文彦、竹平悦子、洞澤文江、宮澤文雄、前沢里江、村山教枝、八板千佳、渡辺順子

事　務　局：松本市教育委員会　教育部　文化財課

小穴定利（課長）、上嶋乙正（部課長　～H21年3月）、塩崎　裕（課長補佐　H20年10月～）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、関沢　聡（同　～H21年3月）、竹原　学(主査)、小山高志（主任）、櫻井　了（主事　～H21年3月）、柳沢希歩（嘱託）




第2図　調査区の位置


調査地
凡例
町人地
武家屋敷
寺社地
流れる堀・川
石垣・土塁
道
河
建築物
「享保十三年(1728)秋改絵本城下絵図」による城郭と城下町の復元図
(平成16年の都市計画図に加筆してある)
0 50 100 200 300m

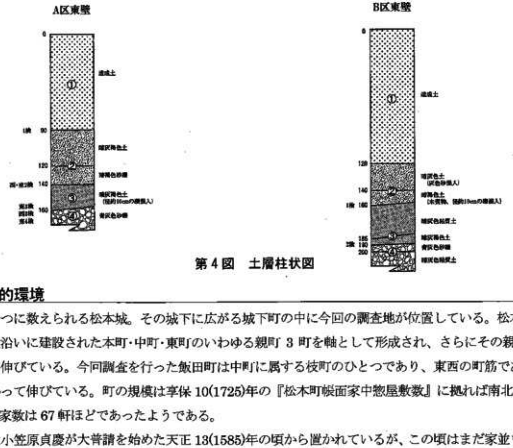
第３図　城下町範囲図

# Ⅱ　調査地の環境

## 1　地理的環境

今回の調査地点は松本城天守閣の南約 700m に位置しており、約 100m 北には女鳥羽川が流れている。調査地周辺は女鳥羽川水系の扇状地に属しており、周囲の地盤は比較的軟弱なものとなっている。このためある程度の地盤沈下が生じていたと考えられ、これまでの発掘調査では伊勢町付近で年約 1.6～1.7mm の速さで沈下していることが判明している。調査地はこれよりさらに軟弱な地盤に属していると思われるため、伊勢町付近と同程度ないしはそれ以上の地盤沈下を起こしていると考えられる。

調査地の基本十層は以下に示した通りである。①層は近代から現代の造成土である。②層は明治時代に属すると思われ、明治 21 年の火火と思われる火災処理層が確認される。③層は近世から近代にかけての整地層である。暗灰褐色の粘質土で構成され、3cm 程度の礫や炭化物が混入する。近世に属する整地層はこの 1 層しか確認できず、前述のように年約 1.6～1.7mm 沈下していると考えると非常に薄いことが分かる。これは近世において普遍的に行われていたと考えられる盛土による整地ではなく、撹拌ないしは土の入れ替えによる整地が行われていたためであると思われる。これは過去の調査において確認されてきた盛土による整地方法とは異なるものになるため沖積地における整地を考える上で貴重な資料になり得るであろう。④層以下は中近世以前の自然堆積層であると考えられ、緩やかな水の流れに起因する灰色砂礫層下に暗灰色粘土など女鳥羽川の堆積層が堆積している。




第 4 図　土層柱状図

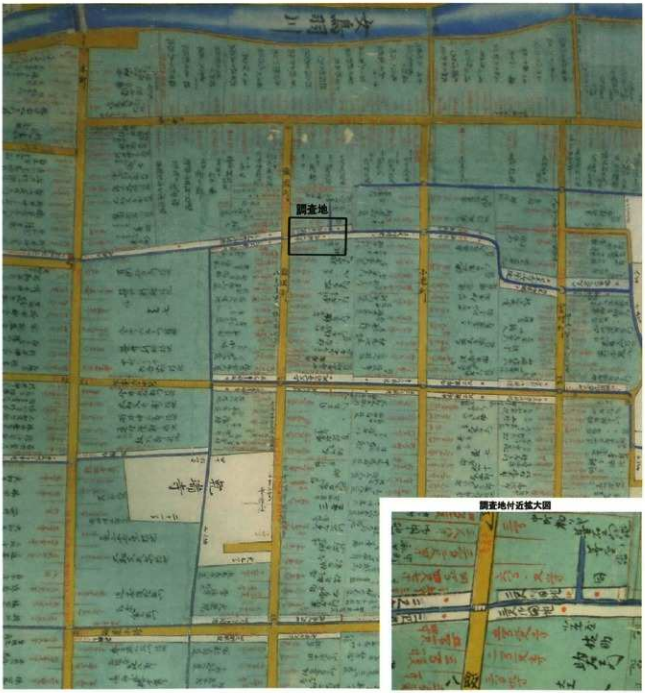
## 2　歴史的環境

国宝の一つに数えられる松本城。その城下に広がる城下町の中に今回の調査地が位置している。松本城下町は北国脇往還沿いに建設された本町・中町・東町のいわゆる親町 3 町を軸として形成され、さらにその親町から 10 町の枝町が伸びている。今回調査を行った飯田町は中町に属する枝町のひとつであり、東西の町筋である中町から南に向かって伸びている。町の規模は享保 10(1725)年の『松本町候面家中惣屋敷数』に拠れば南北 3 丁 54 間 4 尺 5 寸で家数は 67 軒ほどであったようである。

飯田町は小笠原貞慶が大普請を始めた天正 13(1585)年の頃から置かれているが、この頃はまだ家並もまばらであった。後に入部した小笠原兵部大輔秀政は慶長 18(1613)年から飯田町を含む枝町の整備に着手している。水野氏時代に編纂された『信府統記』に拠れば、飯田町という町名は小笠原秀政氏が旧領であった飯田にちなんでつけたとされているため、この時期において家並が整えられ飯田町と呼ばれるようになっていったものと思われる。その後戸田氏、松平氏、堀田氏、水野氏と城主が替わるにつれ城下町の整備も進んでゆき、現在のような城下町の形態となっていく。こうした中で各町には職業別の特色ができていく。飯田町は主に職人が多く住んだといわ

れており、とりわけ鍋屋が多かったようである。享保 8(1723)年頃の絵図に拠れば飯田町には鍋屋 5 軒、医師 5 軒、紺屋 4 軒、鍋売 3 軒、桶屋 3 軒、扇屋 1 軒、大工 1 軒、綿打屋 1 軒、万屋 1 軒、油屋 1 軒などがみられ、鍋屋・医師・紺屋が多くあったことが窺える。中でも紺屋は隣接する小池町にも多く、寛文 6(1697)年頃には 8 軒みられるなど、鍋屋と共に古くから飯田町の特徴を担っていたと思われる。

このように町が発展していくと当然のごとく家屋が密集することとなり、火災の被害も増えていった。飯田町も例外ではなく、甚大な被害をたびたび受けている。近世・近代期において飯田町に関わる火災は確認できるだけでも正保元(1664)年、元禄 9(1969)年、寛保元(1741)年、天明 3(1783)年、寛政 7(1795)年、享和 3(1803)年、天保 5(1834)年、元治元(1864)年、明治 21 年と多数ある。特に明治 21 年の大火の被害は甚大で、計 1553 戸が焼失している。




**第 5 図　絵図に見る調査地**

# Ⅲ　調査結果

## 1　調査概要

今回の調査は松本城下町跡飯田町の北端にあたる位置で行われた。調査地中央には近世より流れる蛇川溝が横走している。調査地は藤森病院の駐車場にあたる箇所であり、消防法の規定に従い救急自動車進入路を確保する必要があった。このため常時救急自動車進入路及び来院者の安全を確保しつつ、蛇川溝を境として北側にA区、南側にB区を設定し、2期に分けて調査を行った。

調査はまずA区から行った。調査を始めるにあたってまず試掘箇所を中心として設定したトレンチにて土層確認を行い、それに基づいて撹乱部分の掘削を行った。その後遺構面までの掘削を行うこととしたが、湧水が激しく調査区が水没する危険性が生じたため、幅1m程度の排水・貯水溝を設定した。また、軟弱地盤である上遺構面最下層深度が地表下150cm程度に及ぶことから、安全確保のため周辺を約1m内側に入れて調査区を設定し掘削を行った。また、壁面からの湧水も見られたため調査区内にも随時排水溝を設定し、調査を進めることとした。遺構面及び各検出面の掘削はバックホーを用いて行った。調査を進める中で第2検出面中央付近から南北方向に伸びる石垣が検出された。検出時の状況からこの石垣を境として西半は石垣の構築面、東半は石垣建造後に堆積したものであり、石垣の東西で帰属時期が異なることが想定されたため、便宜上石垣以西を西検出面（2～3検）、以東を東検出面（2～4検）と区分し調査を進めた。各面調査終了の後埋め戻しを行い、救急自動車進入路には鉄板を敷設した。

B区はA区埋め戻し終了の後調査を行った。上記救急自動車進入路確保等のため調査区は蛇川溝に近接して設定せざるを得なかった。そのため蛇川からの漏水防止及び安全確保のため、調査区南壁を鉄板で保護し調査を進めていくこととした。A区同様第1検出面までの掘削は撹乱層除去後調査区を1m内側に設定しつつバックホーによって行ったが、それ以降の掘削は人力にて行った。

各調査区における遺構番号はA・B区の各検出面において各々番号を付した。各面の遺構の測量は、A区南西の任意の点に設置した測量原点（NS＝0、EW＝0）を中心に1m方眼を設定して行い、後に国家座標 X=25991.419、Y=－47585.827、Z=588.586（世界測地系）を移設した。測量図面は1／20の縮尺で作成した。尚、掲載している図中の方位記号は真北を表している。

**調査成果**

**調査期間**：平成20年4月14日～6月13日

**調査面積**：総延面積　135.12㎡（A区延面積　114.57㎡　B区延面積　20.55㎡）

**出土遺構**：A区

1検　土坑1、間知石列3

西2～3検　石垣1

東2検　土坑1

東4検　土坑1、間知石列1

B区

2検　土坑3、埋設甕1

**出土遺物**：陶磁器　碗、小杯、皿、灯明皿、擂鉢、灰落し、鬢盥、急須、瓶類、徳利、神酒徳利、灯明受け皿、水滴、人形など

土器　植木鉢など

瓦　桟瓦など

石器　石臼、硯、砥石など

木器　椀、栓、円板、歯車、札、人形など

金属器　煙管、簪、刀装具、釘、火打ち金具、燭台、寛永通宝など

## 2　出土遺構

A区2検から検出された石垣1は調査区ほぼ中央に位置し、調査区西半全域にわたって石垣1を構築する礫群が広がっていた。このような状況からA区2検以下は石垣1とそれ以降の整地土層に区分することができると想定されたため、石垣1以西を西検出面、以東を東検出面として調査を進めていった。また、B区においては2検以下に明瞭な土層の変化面が確認された。一部において少数の遺物も確認できたため調査時にはこれを3・4検として調査を行ったが、調査を進めるうち地山層であることが判明した。なお、A区東4検土坑1は調査時において遺構ではないことが判明したため、欠番とした。

**A区第1検出面　(19C 中葉～)**

A区一面に見られた焼土層を除去した後に検出された面であり、東に暗褐色砂礫土層、西に黄褐色砂層が露出する。上層に見られた焼土層は銅版転写や型紙摺りなどの手法で施文された瀬戸・美濃産磁器製品を多量に含んでいるため、先述した明治21年に起きた大火の際の火災処理層である可能性が極めて高いと思われる。西部に見られる黄褐色砂や東部の暗褐色土は焼土層に挟み込まれる土層である。この両土層中からは明治期に属する遺物も多数出土しているため、この検出面自体も火災処理層の一部、もしくは火災処理層と同時期以降である可能性が高い。調査区東部からは間知石列1～3が確認された。間知石列1・2は便宜上区分したものの、ひとつの遺構を成すものであろうと思われる。石列は暗灰褐色土層上に見られたが、この暗灰褐色土は調査区南壁面において火災処理層の上層にて確認されるため、明治後半期以降に構築されたものであろう。間知石列3は間知石列1・2に切られるものであるため明治時代前中期頃のものであると推定される。

**A区東第2・3検出面　(19C 前葉～中葉)**

石垣1以東がこれにあたる。一部木質物を多量に含む暗褐色土を東2検、この暗褐色土及び中央の焼土層を除去した面を東3検としたが、両検出面共に明確な遺構も確認されなかったため、生活面ではなく同時期に構成された整地層ではないかと思われる。調査区南壁にあたる1検トレンチ1に示されるようにこれらの整地層は西2～3検石垣1の上層から続いており、石垣1から緩やかに傾斜して落ち込んでいる。このため、これらは石垣1廃絶後に一部石垣を崩しながら整地されたものであり、出土遺物等から19C前葉～中葉、幕末から明治期に属するものであると考えられる。また、東2検南部からは土坑1が検出された。覆土中に木質物や遺物を多量に含んでいたためゴミ穴であることを想定し調査を行ったが、周辺土層の堆積状況や遺構形状から整地層の一部である可能性が高いと考えられる。

**東第4検出面　(18C 後葉～19C 初頭)**

地山であると考えられる砂礫層に伴う面である。検出面のレベルは西2～3検石垣1基底部と同レベルであり、間知石列1、粘土層等の石垣に伴う遺構も検出されているため、石垣1構築期の生活面であると考えられる。東半からは土坑2が検出されたが、湧水による崩落の危険性を伴うため一部しか調査が行えなかった。径約2m、深さ80cm程の大型土坑であると推定される。その規模から大型のゴミ穴もしくは井戸であろうと思われ、覆土中からは呪符と思われる木簡(木器7)が出土している。

**西第2・3検出面　(18C 後葉～19C 初頭)**

調査区中央より出土した石垣1以西の面であり、石垣に伴う人頭大の加工礫が多数検出された。調査の進行上この礫群の上面を西2検、取り除いた底面を西3検としたが、石垣を伴う構築物の性質上これらの面は同時期に形成されたものと考える。石垣1は南北方向に伸びる石垣である。2～3段の築石が残存しており、方形で横長の石が布積みでほぼ垂直に積み上げられている。根石下には扁平礫が2列敷かれており、さらにその下にはそれを支える石列が見受けられた。石垣の前面にあたる東部約1.8mの箇所には東4検間知石列1が石垣と並行するように伸びており、その間には砂礫混じりの粘土層・黒色砂が見られた。この粘土層は間知石列との間に充填していたものであると思われ、間知石列と共に石垣の周囲をめぐる構築物であると考えられる。石垣以西に見られる

礫群は 10～40cm 程の加工礫であり、非常に密集した状態で調査区外まで続いていく。調査区の位置関係からして街路まで続いているであろう。石垣裏側には明瞭な掘方及び裏込め石は認められず、一部石垣際で暗褐色土・灰色粘質土・砂礫土が版築状に見られたのみであった。また、築石が垂直に積まれている点や築石の礫法量が大きくない点も踏まえると、この石垣は高く積み上げられたものではなく、低い段状に構成された建物基礎であると推定され、西方に広がる礫群は地盤沈下を防ぐため敷設されたものであると考えられる。また、礫群の礫法量や石材などは築石と酷似しているものも多く見られるため、東 2・3 検整地時に崩れたであろう築石上段部が混在している可能性も有している。石垣 1 覆土中からは 18C 後半～19C 初頭に属する遺物が多数出土しているため、江戸後半期に構築されたものであろうと推定される。

**B 区第 1 検出面 (19C 中葉～後葉)**

近代の整地土を除去して検出したものであるが、湧水が激しく明確な遺構検出は行えなかった。調査区中央には木材が 2 本南北方向に横たわっていた。特に西側の木材は西部にグリ石状の集石を伴っているため基礎状の遺構である可能性が考えられる。

**B 区第 2 検出面 (18C 後葉～19C 初頭)**

灰色の砂礫層上で検出を行った。やはり湧水が激しく遺構判別は困難であったが、計 3 基の土坑と思われる掘り込みが検出された。上坑 1 は調査区西部に位置する。検出当初は箱状木製品の周囲に掘方を伴うものと認識していたが、調査を進めるうち木製品は上面に乗っているだけであり、下層で確認された径 60cm 程の掘り込みが主体であることが判明したためこれを土坑 1 とした。出土遺物から 18C 後葉～19C 初頭に属すると思われる。

調査区中央には土坑 2 が広がっている。径約 2m と大型の割に 15cm 程の深さしかなく、遺構上面が削平された土坑または大型の窪みである可能性が考えられる。遺構覆土中からは少数の遺物と共に七夕人形(木器 9)が出土した。出土遺物から 18C 後葉～19C 前葉に属すると思われる。

土坑 3 は調査区東端で検出されたが、湧水が激しく詳細は判断し難かった。遺構上部で極端に広がる形を呈しているためゴミ穴もしくは柱穴である可能性が高い。

## 3　出土遺物

今回の調査では近世・近代の遺物を中心として多数の遺物が見られた。この内残存状態の良いものを中心に土器・陶磁器・瓦 94 点、石器 3 点、木器 9 点、金属器 19 点について図化し掲載することとした。

**ア）土器・陶磁器・瓦**

A 区から 52 点、B 区から 35 点、試掘トレンチから 7 点を図化した。尚試掘トレンチ 1 は A 区、試掘トレンチ 2 は B 区に該当する。

**A 区**　18C 後半～19C のものを中心として出土している。その様相から各々1 検：19C 中葉～、東 2・3 検：19C 前葉～中葉、西 2 検：19C 前葉～中葉、西 2～3 検石垣 1：18C 後葉～19C 初頭に帰属すると思われる。産地はほぼ瀬戸・美濃産、肥前産に限定されており、おおよそ 18C 代は肥前産が中心、19C 代に入って瀬戸・美濃産に中心が移っていくという過程が窺える。器種は碗・皿類に代表される生活雑器が多数を占めており、その多くは食膳具とされるものである。碗・皿類には 22～25 のように量産によると思われる同型のものが幾つか見られる。22～25 は同型同法量の筒形碗である。総じて外面には斜格子地に菊花文、見込みには五弁花崩れが染付されており、素地・釉調も同じ特徴を示している。見込みの五弁花、呉須の色調などに若干の違いが確認されるため全くの同時ではなかろうが、ほぼ同時期に生産された量産品であると考えられよう。28 は型打ち成形された磁器花形水滴である。長石を多量に含むと考えられる白色を帯びた透明釉が施釉されており、上面の一部は呉須により彩色されている。恐らく 17C 中葉～後葉の肥前産であると思われ、松本市松本城三の丸跡小柳町第 2 次調査(松本市文化財調査報告 No.199)でも同型のものが出土している。

また、墨書が書かれた陶磁器も幾つか確認された。7 は黄灰色の堅緻な素地を持つ陶器である。施釉は灰釉で内外面共に施釉されている。墨書は底面に「セヒウ」の 3 文字が確認された。墨書の意図は定かではないが、内面にまで施釉が及んでいる点から油壺などの可能性が高いと思われる。46 は底部付近で極端に内湾する瓶類の底部である。内外面共に灰釉が施釉されており、高台部は露胎である。底面には「セス」の墨書が見られる。器形からして瓶類であるとは思われるが具体的な器種は判別できなかった。41 は瀬戸・美濃産陶器徳利である。墨書は底面で確認され、「月」「古」の文字が不規則に配置されていた。3 点共に 19C 代の瀬戸・美濃産である。

B 区　B 区も A 区同様 18C 後半～19C が中心となっており、1 検：19C 中葉～後葉、2 検：18C 後葉～19C 初頭に比定される。碗・皿類などの生活雑器が多く出土しているが、人形や線刻瓦など特殊な品も幾つか確認された。人形は 76 である。黄灰色の素地にやや黄色味を帯びた灰釉が掛けられている。頭部が破損してしまっているが、着物を着た人物を模した陶製人形で、玩具として使用されたものであろう。79 は桟瓦の一部である。暗灰色の器面には雲母粒が吹き付けられており、一部には瓦を固定するための小孔が穿たれている。一見すると単なる桟瓦片であるが、よく見ると表面には線刻で髷を結い着物を着た男性が描かれている。髷は大銀杏、着物は小袖というよりは袴に見えるので武家を描いたものであろうか。手に何かを持っているものの、刀などの表現は確認できないため断定はできない。また、その上部には書きかけであろうか、もう一人別の人物の頭部が顔をのぞかせている。線刻は焼成後に描かれたものであり、廃棄後程よい大きさに破損した桟瓦の一部を利用して絵を描いたものであろうが、上部に見える人物の顔上半が欠損しているので、線刻の後さらに破損したものと考えられる。

**イ）石器**

33 点の石器が出土した内 3 点を掲載した。1 は粉挽き臼の上臼である。約半分が欠損しており、被熱してはいたがものくばりや挽き木の留め孔などを確認することができた。また、金属製のリンズが一部残存している。目の主溝は 6 分割である。2 は同じく石臼であるが、こちらは茶臼の下臼である。きめの細かい粗れい岩が使用されており、粉挽き臼と異なりふくみが平坦になっている。目の主溝は 8 分割であると思われる。3 は硯である。臨は使用により窪んでおり、用途不明の線刻が多数刻まれていた。一部には墨と思われる付着物が見られた。

**ウ）木器**

湧水地であるためか木器の残存状態は良好であり、22 点の出土が見られた。この内状態の良いものを中心に 9 点を図化した。器種は椀、栓、円板、歯車、札、七夕人形などが見られる。7 は長さ 20.9cm、幅 4.6cm を測る長方形の札である。出土当初は全面色鮮やかな朱色を呈しており、一部には墨書が見られた。墨書は「東」字またはそれに類する崩し文字が中央に幾文字か配置され、その周囲に幾何学状の模様が施されている。右下部には「小三治信士」の文字も見られる。このような模様または文字の形態から何らかの呪符である可能性が高いと思われるがその用途は不明である。また、裏面にも墨書があったと思われるが、全面墨で塗り消されていた。

9 は角柱状の七夕人形である。古くから松本地方では特徴的な七夕行事として衣を着せた男女一対の人形を軒先などに吊るす習俗が伝わってきた。七夕人形とはこうして飾られる人形の事を指す。人形の形態は様々あるが、現在では人がた形式・着物掛け形式・紙雛形式・流し雛形式の 4 形式に分類されている。今回出土した人形を見ると高さ 8.5cm、幅 2.9cm の角柱状を呈しており、その 1 辺を中心としてりりしい顔が墨で描かれている。両側面には左右対称に小孔が見られるため、衣を掛けるための腕となる木を差し込んで固定していたものと思われる。下端面には足などを固定するためであろうか横位に細い溝が確認された。また、上面には吊るす際に用いたであろう小孔も確認された。残念ながら衣や手足は残存しておらず胴体のみの出土であるため推定の域は出ないが、松本市立博物館所蔵の重要有形民俗文化財「七夕人形コレクション」に類例を求めるのであれば、人がた形式や紙雛形式の一部に見られる小型で角柱状の頭・胴部を有するものに近い形ではないかと思われる。

松本地方における七夕人形の初現は明らかではないが、天野信景の『塩尻』(正徳 4(1714)年)や菅江真澄の『委

寧の中道』(天明 3(1783)年)、笠亭仙果の『於路加於比』など江戸時代中～後期の文献にはすでに七夕人形を飾る習俗が紹介されている。今回出土した七夕人形は 18C 後葉～19C 初頭に属する陶磁器と共に出土しているため江戸時代後期に使用されていたものと推定され、『委寧の中道』や『於路加於比』に描かれている人形にも類似していることからこれらの文献に見られるような、七夕人形の中でも古い形態のものであると考えられよう。

**エ）金属器**

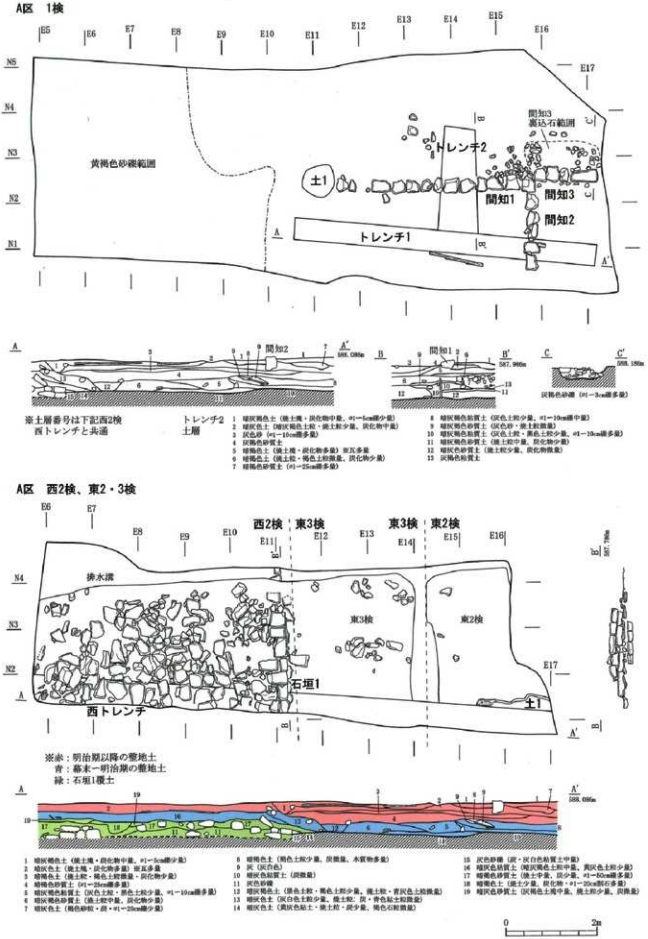
金属器は 111 点出土している。この内 19 点について図化し掲載した。総じて近世以降のものである。器種は煙管、簪、刀装具、釘、火打ち金具、燭台、寛永通宝などが見られ、簪の出土量が特徴的に多い。簪は 8 点出土しており、そのほとんどは A 区からの出土である。どれも残存状態が良好で、多くは金・銀の鍍金に至るまで残存していた。材質は鉄、銅、銀、真鍮などが見られる。5 の簪は真鍮製であると推定される。蛤貝を模した飾りがはめ込まれており、その表には鳥文が彫金されている。この飾りより先端は欠損してしまっているが、耳かき状の頭部がついていた可能性が高いと思われる。胴部は桜花の彫金で彩られている。全体的に金鍍金が施されており、金色も鮮やかな美品である。6 は銀製と思われる簪である。いわゆる耳かき簪であり、胴部には桜花の一弁があしらわれている。9 は小型の簪であると思われる。足の先端が尖っており、頭部には花のつぼみのような装飾が見られる。また、図化はできなかったが、漆が塗付されたと思われる簪も 1 点出土している。その他特徴的なものとして刀装具が挙げられる。10～12 が該当し、10 は石突ないしは兜金、11 は鍾、12 は目貫きであると思われる。共にほぼ完形での出土であり、12 には梅花・菊花の装飾が見られた。

## 4　調査のまとめ

今回の調査地は飯田町の北端にあたる。周囲は非常に湧水の激しい土地であり、蛇川溝、源智溝に代表される用水路も幾筋か流れている。調査地はこの蛇川溝を挟んで南北に位置し、町屋 2 軒分に該当する。蛇川溝南にあたる A 区では近世後半～近代以降に属する遺構が確認された。2 検西半に広がる石垣 1 は西側一面に広がっていた礫群と合わせて建物基礎であった可能性が高いと思われる。石垣西部の礫群は調査区の西端まで確認され、さらに調査区外にまで及んでいることから道筋まで続いているものと推測され、道に面した家屋の基礎部分であろうことが予想される。また、石垣 1 東 1.8m の位置に並行する東 4 検間知石列 1 も検出レベルなどから石垣 1 に伴うものである可能性が高く、両者間に充填されていた粘土と共に石垣 1 の周囲を巡るものであったと考えられる。石垣 1 及び東 4 検の下層は緩やかな水の流れに起因する灰色砂礫層が堆積しており、これが地山層となる。しかしながら石垣 1 は出土遺物から 18C 後葉～19C 初頭に構築されたと推定されるため、当該地には 18C 中葉以前の整地が見られないということとなる。文献資料によれば飯田町は天正 13(1585)年の頃から置かれ、慶長 18(1613)年には本格的な整備が行われており、18C 前葉の絵図には医師が住んでいたという記載も見られることから 17C～18C 前半期に当該地に町屋が存在しないとは考え難く、17C～18C 前葉の遺物がほとんど見られない点、周辺の地盤沈下速度に比して近世の整地土層厚が薄い点など合わせて考慮すると、18C 中葉頃において松本城下で一般的に見られるような盛土による整地ではなく、攪拌ないしは土の入れ替えによる整地が行われた可能性が高いと考えられる。このような整地の痕跡は B 区においても確認され、A 区同様 18C 前半期の遺物はほとんど見ることができず、地山である砂礫層の直上は 18C 後葉～19C 初頭の整地層であった。このことからこの整地方法は調査地のみならず周辺一帯で行われていた可能性が高いと考えられる。

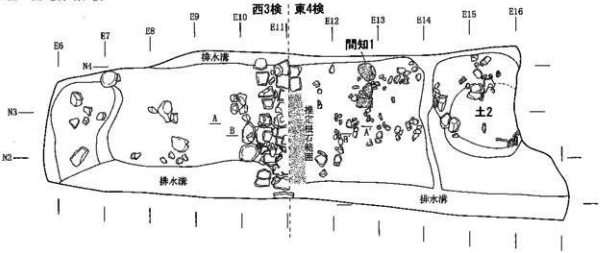
また、B 区においては 2 検土坑 2 より七夕人形が出土した。これは松本地方に伝わる七夕習俗に関わるものであり、発掘調査での出土は初めてとなる。土坑共伴遺物などから 18C 後葉～19C 初頭に属するものであると推定され、江戸後半期における松本地方の七夕習俗を探る資料として考古学のみならず民俗学的にも貴重な資料であるといえよう。

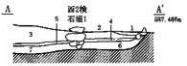
**参考文献**：松本市立博物館　『七夕と人形』　2005


A区　1検
E5
E6
E7
E8
E9
E10
E11
E12
E13
E14
E15
E16
E17
N5
N4
N3
N2
N1
黄褐色砂礫範囲
トレンチ2
土1
間知1
間知2
間知3
間知3
裏込石範囲
トレンチ1
A
A'
B
B'
C
C'
間知2
間知1
※土層番号は下記西2検
西トレンチと共通
トレンチ2
土層
1 暗灰褐色土（焼土塊・炭化物中量、φ1～5cm細少量）
2 暗灰色土（暗灰褐色土粒・焼土粒少量、炭化物中量）
3 灰色砂（φ1～10cm細多量）
4 灰褐色砂質土
5 暗褐色土（焼土塊・炭化物多量）軍瓦多量
6 暗褐色土（焼土粒・褐色土粒微量、炭化物少量）
7 暗褐色砂質土（φ1～25cm細多量）
8 暗灰褐色粘質土（灰色土粒少量、φ1～10cm細中量）
9 暗灰色砂質土（灰色砂・焼土粒微量）
10 暗灰色粘質土（灰色土・黒色土粒少量、φ1～10cm細多量）
11 暗灰褐色砂質土（焼土粒中量、炭化物少量）
12 暗灰色砂質土（焼土粒少量、炭化物微量）
13 灰褐色粘質土
灰褐色砂礫（φ1～3cm細多量）
A
A'
B
B'
C
C'
西2検
東3検
東3検
東2検
E6
E7
E8
E9
E10
E11
E12
E13
E14
E15
E16
E17
N4
N3
N2
A
A'
排水溝
東3検
東2検
石垣1
西トレンチ
土1
※赤：明治期以降の整地土
青：幕末～明治期の整地土
緑：石垣1覆土
1 暗灰褐色土（焼土塊・炭化物中量、φ1～5cm細少量）
2 暗灰色土（焼土塊・炭化物少量）軍瓦多量
3 暗褐色土（焼土粒・褐色土粒微量・炭化物少量）
4 暗褐色砂質土（φ1～25cm細多量）
5 暗灰褐色粘質土（灰色土粒・黒色土粒少量、φ1～10cm細少量）
6 暗灰褐色砂質土（焼土粒中量、炭化物少量）
7 暗灰色土（褐色砂粒・炭・φ1～25cm細少量）
8 暗褐色土（褐色土粒少量、炭微量、木質物多量）
9 炭（灰白色）
10 暗灰色粘質土（炭微量）
11 灰色砂礫
12 暗灰褐色土（黒色土粒・褐色土粒少量、焼土粒・青灰色土粒微量）
13 暗灰色土（灰白色土粒少量、焼土粒・炭・骨色粘土粒微量）
14 暗灰色土（黄灰色粘土・焼土粒・炭少量、褐色石粒微量）
15 灰色砂礫（炭・灰白色粘質土中量）
16 暗灰色粘質土（暗灰褐色土粒中量、黄灰色土粒少量）
17 暗褐色砂質土（焼土少量、炭少量、φ1～50cm細多量）
18 暗褐色土（焼土少量、炭化物・φ1～25cm粒石多量）
19 暗灰色砂質土（灰褐色土塊中量、焼土粒少量、炭微量）
0
2m

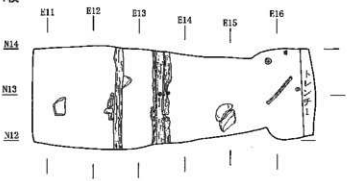
第６図　検出遺構（1）

A区　西3検、東4検



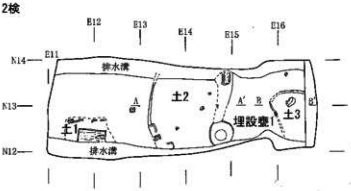



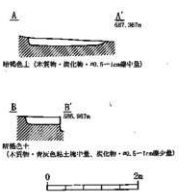
B区　1検




土1 別図

B区　2検




第７図　検出遺構（2）

# 第1表　土器・陶磁器・瓦一覧表

| 番号 | 年代 | 遺構 | 検出部 | 遺構 | 器種 | 器面 | 器形 | 器面 | 器形 | 残存度 | 胎土系 | 焼調 | 釉色 | 技法・文様・形態の特徴 | 推定年代 | 産地 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 碗 | (11.0) | 3.8 | 5.2 | 口-1/12 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 型紙摺り | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 2 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 小鉢 | (7.0) | (3.4) | 6.1 | 口-1/4 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 草花文 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 3 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | | (0.4) | 8 | 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 蛇の目凹形高台 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 4 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | (9.5) | (4.8) | 2.6 | 口-1/6 底-1/3 | 白 | 透明釉 | 白磁・型打 | 型打ち菊皿 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 5 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | (9.3) | (4.8) | 2.8 | 口-1/6 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 白磁・型打 | 型打ち菊皿 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 6 | 001 | A | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | | (8.0) | 8.8 | 口-一部残 底-1/3 | 白 | 透明釉 | 染付 | 型紙摺り　蛇の目凹形高台 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 7 | 001 | A | 1 | 検出面 | 陶器 | 鉢 | | | 4.6 | 底-完 | 黄灰 | 灰釉 | | 底面墨書あり「ビ ヒ ウ」 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 8 | 001 | A | 1 | 検出面 | 陶器 | 打物皿 | (7.4) | (2.3) | 1.6 | 口-1/4 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 9 | 001 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 碗 | (9.6) | 4.0 | 4.2 | 口-1/4 底-1/2 | 灰白 | 透明釉 | 染付 | 高台紐付整　くらわんか系 | 18C前 | 肥前 |
| 10 | 007 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 小鉢 | 7.6 | 3.2 | 5.4 | 完形 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面草文 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 11 | 010 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | (1.4) | 4.8 | 底-1/4 | 灰 | 透明釉 | 染付 | 見込み五弁花・蛇目釉剥 | 18C | 肥前 |
| 12 | 011 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 碗 | (7.2) | (3.4) | 5.2 | 口-1/10 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 梅花紋　外面鉄絵手描に丸紋　見込み蛇目 | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 13 | 016 | A | 1 | トレンチ1 | 白磁 | 小皿 | (4.4) | 2.2 | 3.6 | 口-1/4 底-完 | 黄白 | 透明釉 | 白磁 | 全面鉄釉 | 不明 | 不明 |
| 14 | 016 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | | 5.7 | 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 蛇目凹形　高台 | 18C後～19C初 | 瀬戸・美濃 |
| 15 | 008 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | (13.0) | (6.8) | 3.8 | 口-1/4 底-2/6 | 灰白 | 透明釉 | 染付 | 外面唐草文　蛇の目凹形高台 | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 16 | 098 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | (8.2) | | 底-1/2 | 灰白 | 透明釉 | 染付 | 見込み五本　蛇の目凹形高台　筆跡不鮮あり | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 17 | 098 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | | | 口-一部残 | 黄灰白 | 透明釉 | 銅板 | 蛇の目凹　口縁部一部銅版 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 18 | 027 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | (8.2) | | | 口-1/3 | 灰白 | 透明釉 | 染付 | 波紋文様あり | 18C後 | 肥前 |
| 19 | 028 | A | 1 | トレンチ1 | 陶器 | 皿 | (14.0) | (7.0) | 3.3 | 底-1/3 | 黄白 | 灰釉 | | 輪花 | 18C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 20 | 053 | A | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 碗蓋 | | (9.0) | | 底-5/8 | 灰白 | 透明釉 | | 雅印紋用による梅鉢　外面墨付有 | 19C後～19C初 | 瀬戸・美濃 |
| 21 | 090 | A | 1 | トレンチ2 | 磁器 | 碗 | | 5.2 | | 底-完 | 灰白 | 透明釉 | 染付 | | 19C中～後 | 肥前 |
| 22 | 011 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 碗 | 7.3 | 3.6 | 5.6 | ほぼ完形 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面鉄絵手描に菊花　底面圏線 | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 23 | 051 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 碗 | 7.6 | 3.4 | 5.5 | ほぼ完形 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面鉄絵手描に菊花　底面圏線　ゆがみあり | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 24 | 051 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 碗 | 7.4 | 3.4 | 5.6 | ほぼ完形 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面鉄絵手描に菊花　底面圏線　ゆがみあり | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 25 | 048 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 碗 | 7.4 | 3.4 | 5.5 | ほぼ完形 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面鉄絵手描に菊花　底面圏線　ゆがみあり | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 26 | 048 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 小皿 | 8.4 | 1.8 | 2.8 | 口-1/3 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 18C中～後 | 肥前 |
| 27 | 048 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 瓦燈 | | 5.0 | | 底-2/5 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 19C中～後 | 肥前 |
| 28 | 048 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 火鉢 | | | | | 灰白 | 透明釉 | 白磁 | 花卉文調　型打成形　底面有目あり | 17C中～後 | 肥前 |
| 29 | 055 | A | 第3 | 検出面 | 陶器 | 鉢 | | 8.8 | | 底-ほぼ完 | 浅黄灰 | 飴釉 | | 貫付印成あり | 18C後～19C初 | 瀬戸・美濃 |
| 30 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 碗 | (9.4) | | | 口-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 内面四方等　蛇目釉掛あり | 18C後 | 肥前 |
| 31 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 碗 | (7.0) | | | 口-1/4 底-一部残 | 白 | 透明釉 | 染付 | 角四角　内面四方等　底面・見込み二重圏線 | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 32 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 碗 | (7.0) | | | 口-5/16 | 白 | 透明釉 | 染付 | 四角角　内面四方等 | 18C後 | 肥前 |
| 33 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 皿 | | (3.8) | | 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 底面・見込み二重圏線 | 18C後 | 肥前 |
| 34 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 碗 | (6.8) | | | 口-1/8 | 灰 | 灰釉・鉄釉 | | 筒下駄 | 18C後 | 瀬戸・美濃 |
| 35 | 042 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 碗 | (9.4) | 4.4 | 5.7 | 口-一部残 底-2/3 | 灰白 | 灰釉・鉄釉 | | 櫛手筋 | 18C後 | 瀬戸・美濃 |
| 36 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 皿 | | (3.3) | | 底-完 | 灰白 | 灰釉 | | 輪花 | 18C後～19C前 | 瀬戸・美濃 |
| 37 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 小皿 | (8.3) | 3.4 | 6.1 | 口-一部残 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 底面「宮徳平製」銘　見込み梅花 | 17C中～後 | 肥前 |
| 38 | 033 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 皿 | (13.0) | (7.4) | 3.2 | 口-1/4 底-一部残 | 白 | 透明釉 | 染付 | 高台釉掛　見込み五弁花　蛇目釉剥 | 19C前～中 | 肥前 |
| 39 | 045 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 皿 | (14.1) | 5.2 | 4.4 | 口-1/4 底-1/6 | 白 | 透明釉 | 染付 | 見込み五弁花　底面圏線　内面内圏線　内面内圏線 | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 40 | 043 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 壺蓋 | | (12.0) | | 底-1/2 | 黄白 | 飴釉 | | 内面砂・鉄分付着 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 41 | 041 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 瓶 | | 8.4 | | 底-完 | 灰白 | 灰釉 | | 貫頭器あり | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 42 | 023 | A | 第2～3 | 石垣1 | 磁器 | 仏具 | (6.3) | | | 口-1/2 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 19C前～中 | 肥前・美濃 |
| 43 | 040 | A | 第2～3 | 石垣1 | 陶器 | 鉢蓋 | | | 3.5 | 一部残 | 黄灰白 | 灰釉 | | | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 44 | 020 | A | 第2 | 検出面 | 陶器 | 鉢 | | (11.6) | | 底-1/3 | 灰白 | 灰釉 | | 貫頭器 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 45 | 031 | A | 第2 | 検出面 | 磁器 | 灯明皿 | (9.9) | (3.4) | 2.2 | 口-1/2 底-1/3 | 黄灰白 | 透明釉 | | 見込み五弁花　外面スス付着 | 19C前～中 | 肥前 |
| 46 | 027 | A | 第2 | 検出面 | 陶器 | 鉢蓋 | | 4.0 | | 底-1/2 | 灰白 | 灰釉 | | 底面墨書「ヒス」 | 19C | 瀬戸・美濃か |
| 47 | 031 | A | 第2 | 検出面 | 陶器 | 鉢 | 8.6 | | 1.8 | 完形 | 灰 | 灰釉 | | | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 48 | 027 | A | 第2 | 検出面 | 陶器 | カンテラ | | 3.8 | | 底-完 | 灰 | 灰釉 | | 底部スス付着 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 49 | 090 | A | | AK抜き上 | 磁器 | 碗 | | 4.0 | | 底-ほぼ完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面山水文・底面圏線　指手跡残 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃か |
| 50 | 060 | A | | AK抜き上 | 磁器 | 皿 | (12.6) | 3.0 | 5.7 | 口-1/4 底-一部残 | 白 | 透明釉 | 染付 | 見込み笹文　外面青磁釉 | 19C前～中 | 肥前 |
| 51 | 069 | A | | AK抜き上 | 磁器 | 碗 | | | | | 白 | 透明釉 | 染付 | 高台紐付　蛇目 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 52 | 069 | A | | AK抜き上 | 陶器 | 蓋ツマミ | | 3.3 | | 底-1/5 | 灰白 | 飴釉 | | 一重目状抽象ツまみ | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 53 | 066 | E | | 検出面 | 磁器 | 碗 | | (11.6) | | 口-1/10 | 白 | 透明釉 | 染付 | 武用図柄 | 18C前 | 肥前 |
| 54 | 065 | B | | 検出面 | 陶器 | 皿 | | | | 底-完 | 淡黄灰 | 灰釉 | | 焦の見込 | 18C | 瀬戸・美濃 |
| 55 | 062 | B | | 検出面 | 磁器 | 神饌器脚 | 1.6 | 2.6 | 5.7 | 口-完 底-一部欠 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面ユ字文・筒文 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 56 | 065 | B | | 検出面 | 磁器 | 碗 | | 2.4 | | 底-完 | 淡灰白 | 透明釉 | | 内面灰釉 | 不明 | 瀬戸・美濃か |
| 57 | 066 | B | 1 | 検出面 | 陶器 | 鉢利 | | | | | 淡黄 | 灰釉 | 土釉(赤・黒・白・緑) | 内面一部灰釉 | 18C後～19C前 | 京・信楽 |
| 58 | 063 | B | 1 | 検出面 | 陶器 | 鉢 | (25.0) | (8.0) | (38.0) | 口-1/3 底-2/3 | 淡灰 | 飴釉 | | 見込み輪花 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 59 | 061 | B | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | 9.4 | 3.0 | 5.7 | 口-3/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 内面「成化年制」銘　上面圏あり | 18C後～19C前 | 肥前 |
| 60 | 060 | B | 1 | 検出面 | 磁器 | 皿 | 8.3 | 2.0 | 2.2 | 完形 | 灰白 | 灰釉 | | | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 61 | 065 | B | 1 | 検出面 | 陶器 | 壺 | 6.0 | 3.2 | 1.4 | 口-2/3 底-完 | 淡灰白 | 灰釉 | | 横方刷毛付 | 19C後～中 | 瀬戸・美濃 |
| 62 | 066 | B | 1 | 検出面 | 磁器 | 打物皿 | 8.6 | (3.2) | 1.3 | 口-1/3 底-1/3 | 淡灰 | 透明釉 | 銅版 | | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 63 | 070 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 碗 | (8.4) | (3.6) | 5.5 | 口-一部残 底-1/6 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | 唐草紋あり　外面方形に「国」銘 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 64 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 碗 | (8.3) | | | 口-1/4 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | くらわんか系 | 18C前 | 肥前 |
| 65 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 急須カン | (3.4) | (3.0) | 5.8 | 口-1/6 底-1/3 | 白 | 透明釉 | 染付 | 底面圏線 | 18C後～19C前 | 肥前 |
| 66 | 075 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | | 3.5 | 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 19C中～後 | 瀬戸 |
| 67 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | (14.0) | (8.6) | 4.0 | 口-一部残 底-1/6 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | 蛇の目凹形高台 | 18C後～19C前 | 肥前 |
| 68 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 急須カン | | 7.2 | | 底-1/3 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 69 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 陶器 | 鉢蓋 | (4.6) | (3.4) | 2.6 | 口-1/4 底-完 | 淡灰 | 灰釉 | | | 18C～19C前 | 瀬戸・美濃 |
| 70 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 土器 | 鉢か蓋か | | (18.2) | | 底-1/8 | 暗一黒灰白 | | | 底面「ヒ ヒ」銘あり | 不明 | 不明 |
| 71 | 076 | B | 1 | トレンチ1 | 磁器 | 灯明皿 | 9.7 | 4.6 | 2.9 | 完形 | 灰 | 灰釉 | | 底面墨書「ヒ」銘あり　一部灰釉付着 | 18C後～19C前 | 瀬戸・美濃 |
| 72 | 077 | B | 1 | トレンチ2 | 磁器 | 碗 | (9.7) | | | 口-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 18C後～19C初 | 肥前 |
| 73 | 077 | B | 1 | トレンチ2 | 陶器 | 急須 | 7.0 | | | 底-一部欠 | 暗一黒灰 | 灰釉 | | | 19C後～中 | 不明 |
| 74 | 067 | B | 2 | 1 | 磁器 | 碗 | (16.4) | 5.2 | 5.4 | 7.9 | 口-一部残 底-1/5 | 白 | 青磁釉 | | 19C | 肥前 |
| 75 | 068 | B | 2 | 1-2 | 陶器 | 打物皿蓋 | 9.7 | 4.6 | 2.3 | 口-2/3 底-3/4 | 黄白 | 灰釉 | | 鉄釉薬は胎成あり　鉄釉薬は胎・胎釉薬は胎・胎釉薬は胎 | 18C後～19C前 | 瀬戸・美濃 |
| 76 | 070 | B | 2 | 1-2 | 陶器 | 人形 | 幅4.4 | 高2.6 | 厚3.0 | 一部欠 | 黄灰 | 灰釉 | | 頭部欠損 | 不明 | 不明 |
| 77 | 074 | B | 2 | 検出面 | 磁器 | 皿 | 6.2 | | 3.3 | 底-1/2 天井-完 | 白 | 透明釉 | | 内面一部赤色化 | 不明 | 肥前・美濃か |
| 78 | 074 | B | 2 | 検出面 | 磁器 | 鉢利 | | (4.4) | | 底-1/2 | 淡灰 | 透明釉 | | 高台紐付あ | 18C | 肥前 |
| 79 | 074 | B | 2 | 検出面 | 磁器 | 碗又 | | | 1.75 | 一部欠 | 暗灰 | 透明釉 | 銅版 | 高台内一部か　銘刻文人物(公家) | 不明 | 不明 |
| 80 | 075 | B | 3 | 検出面 | 磁器 | 碗 | | (3.9) | | 底-2/3 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | 高台紐付整　外面「宮徳月文」 | 18C後～中 | 肥前 |
| 81 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 碗 | (7.2) | | | 口-1/8 | 白 | 透明釉 | 染付 | | 18C中～後 | 肥前 |
| 82 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | (7.0) | | | 口-1/8 | 白 | 透明釉 | 染付 | 蛇目釉　内面方角 | 19C前～中 | 肥前 |
| 83 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | | (4.3) | | 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 底面圏線 | 19C前 | 瀬戸・美濃 |
| 84 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | | (16.0) | | 底-1/4 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | 型紙摺り　蛇の目凹形高台 | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 85 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | (9.0) | 4.6 | 2.0 | 口-1/4 底-2/3 | 淡灰白 | 透明釉 | 染付 | 全面釉掛　高台紐付あり　高台内文字 | 19C前 | 肥前 |
| 86 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | 8.1 | 4.1 | 2.5 | 口-5/8 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 底面一重圏線　蛇目釉 | 19C後～中 | 瀬戸・美濃 |
| 87 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | | (13.0) | | 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 蛇の目凹形高台　底面圏線 | 19C後～中 | 瀬戸・美濃 |
| 88 | 078 | B | | BK抜き上 | 磁器 | 皿 | (15.6) | (9.4) | 4.8 | 口-1/8 底-1/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 物花紋　蛇の目凹形高台　底面圏あり | 19C前 | 肥前 |
| 89 | 080 | BK抜 | | トレンチ1 | 磁器 | 小皿 | 8.0 | 3.6 | 6.0 | 口-1/2 底-完 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面草花　底面圏あり | 19C中～後 | 瀬戸・美濃 |
| 90 | 081 | BK抜 | | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | 8.4 | 16.2 | 4.1 | 口-一部残 底-1/2 | 白 | 透明釉 | 染付 | 見込み山水文　ハリ支え | 17C中～後 | 肥前 |
| 91 | 090 | BK抜 | | トレンチ1 | 磁器 | 神饌器脚 | | | 2.3 | 底-5/8 | 白 | 透明釉 | 染付 | 外面六種文・筒文　全面釉掛 | 19C前～中 | 瀬戸・美濃 |
| 92 | 081 | BK抜 | | トレンチ1 | 陶器 | 灯明皿 | 9.0 | 3.6 | 2.1 | 完形 | 淡黄灰 | 飴釉 | | 口縁部打ち欠あり　内外面スス付着 | 18C後～19C初 | 瀬戸・美濃 |
| 93 | 082 | BK抜 | | トレンチ1 | 磁器 | 碗 | 8.0 | 3.2 | 4.9 | 口-1/2 底-3/4 | 白 | 透明釉 | 染付 | 見込み五弁花　蛇目釉剥 | 18C後 | 肥前 |
| 94 | 085 | BK抜 | | トレンチ1 | 磁器 | 皿 | | | 4.1 | 底-ほぼ完 | 淡灰白 | 飴釉 | | 底付部剥あり | 18C | 肥前 |
| 95 | 085 | BK抜 | | トレンチ2 | 磁器 | 皿 | (14.0) | (8.4) | 4.3 | 口-1/4 底-1/3 | 白 | 透明釉 | 染付 | 見込み五弁花　コンニャク判　酒瓶跡　蛇目釉剥 | 17C後～18C前 | 肥前 |

## 第2表　石器一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 検出面 | 遺構 | 器種 | 石材 | 寸法(mm) 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3 | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 粘板岩 | 195 | 82 | 30 | 724.7 | 縁に擦痕あり　縁注、紐を残し大槌 |
| 2 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 粘板岩 | (84) | 69 | (17) | 85.6 | 角・縁欠損　縁・研磨（側面）一部と磨痕3面残る　No.3・No.4・No.5と接合 |
| 3 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 粘板岩 | (58) | (41) | 9 | 24.1 | 砥側2面と磨痕残る敲片　No.2と接合 |
| 4 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 粘板岩 | (125) | 68 | 27 | 257.2 | 角・縁・縁・縁欠・磨痕3面残存　縁一部と磨痕1面欠損　縁中央部例わ No.3・No.3と接合 |
| 5 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 粘板岩 | (54) | (35) | (4) | 8.3 | 砥側3面と平に残る　砥面・研磨欠損　No2と接合 |
| 6 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨石 | 砂質頁岩 | (75) | (69) | (18) | 79.5 | 研磨面1面　No.7と接合 |
| 7 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨石 | 砂質粘板岩 | (76) | (53) | (9) | 42.8 | 研磨面1面　No.6と接合 |
| 8 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨石 | 砂質頁岩 | 162 | 146 | 68 | 1500.0 | 研磨面1面 |
| 10 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨 | 砂質石 | (34) | (24) | (7) | 6.6 | 砥側3面と平に残る　凹面かどの擦痕片　研磨面3面 |
| 11 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨? | 粘板岩 | (81) | (51) | (14) | 84.3 | 砥側1面と磨痕　擦痕片か　研磨面2面 |
| 12 | | A | 1 | トレンチ1 | 磨? | 粘板岩 | (56) | (43) | (10) | 3.3 | 砥辺に凸状の擦れ　折れ面3面 |
| 13 | | A | 1 | トレンチ2 | 磨? | 結晶凝灰岩 | (44) | (40) | (16) | 19.2 | 砥面か研磨面1面残存 |
| 14 | | A | 1 | トレンチ2 | 磨石 | 粘板岩 | (77) | (33) | (12) | 40.2 | 研磨面2面 |
| 18 | | A | 1 | 開発2 | 火打ち石 | 玉髄 | 25 | 22 | 5 | 3.7 | 剥片 |
| 19 | | A | 東2 | 検出面 | 磨? | 粘板岩 | (64) | (60) | (7) | 27.1 | 砥面の一部か　研磨面1面　縁辺に面取り痕あり　被熱破砕片　被熱による赤色化 |
| 20 | | A | 東2 | 検出面 | 磨? | 粘板岩 | (27) | (15) | (2) | 0.7 | 砥部面1面に角度の変わる研磨面2面切り合う　被熱破砕片　被熱による赤色化 |
| 21 | | A | 西2 | 検出面 | 磨? | 粘板岩 | (39) | (17) | (3) | 2.8 | 砥側の一部か研磨面1面　被熱破砕片 |
| 24 | | A | 東3 | 検出面 | 磨石 | 粘板岩 | (31) | (24) | (4) | 3.9 | 研磨面3面 |
| 29 | | A | 西2～3 | 石垣1 | 磨石 | 砂岩 | (74) | (55) | 11 | 61.4 | 研磨面1面　折れ面3面 |
| 30 | 2 | A | 西2～3 | 石列1 | 茶臼 | 硬れい岩 | (310) | (121) | (82) | 3405.0 | 下臼　平分欠損　受け皿部分欠損 |
| 31 | | A | 西2 | 検出面 | 磨石? | チャート | 47 | 35 | 17 | 18.7 | |
| 32 | | A | 西2 | 検出面 | 不明 | 粘板岩? | (21) | (19) | (3) | 1.6 | 砥辺に平状の敲あり　折れ |
| 34 | | A | 西2 | 検出面 | 磨 | 粘板岩 | (21) | (19) | (2) | 1.2 | 砥側面1面と平に残る凹面かどの擦痕片　研磨面3面　被熱による赤色化 |
| 35 | | A | 西2 | 検出面 | 磨? | 粘板岩 | (57) | (47) | (6) | 18.3 | 砥側面一部残存　敲面・縁欠損　研磨面1面　被熱による赤色化 |
| 37 | | A | 排水溝 | 縁石 | 磨敲砥石 | 粘板岩 | (157) | (34) | (15) | 67.0 | 研磨面4面　敲辺相に面取りあり　折れ面3面 |
| 38 | | A | 排水溝 | 石垣? | 磨石? | 流石質 | 50 | 6 | 6 | 2.9 | 平坦6mm円状状　敲跡により粉吉付着 |
| 39 | | A | 排水溝 | 縁石 | 磨敲砥 | 粘板岩 | (52) | (49) | (15) | 39.1 | 研磨面2面　折れ　摩耗度あり　No.40と同一個体か |
| 40 | | A | 排水溝 | 縁石? | 磨敲砥 | 粘板岩 | (52) | (33) | (11) | 21.1 | 研磨面2面　折れ　No.39と同一個体か |
| 41 | | B | | トレンチ1 | 縁石? | 砂質粘板岩 | (65) | (60) | (12) | 34.3 | 研磨面2面　折れ面2面 |
| 42 | | B | 1 | 検出面 | 縁石 | 砂質頁岩 | (54) | (35) | (26) | 56.0 | 研磨面3面　縁辺部に面取りあり　破片 |
| 43 | | B | 1 | 検出面 | 縁石 | 砂質粘板岩 | (113) | (37) | 29 | 193.9 | 研磨面3面　折れ面3面 |
| 46 | 1 | B | 東1 | 炭1 | 石臼 | 安山岩 | (260) | (130) | 80 | 3060.0 | 検像生石　上臼　リング状　ものこぼり・挽き木屑の孔残る　平分欠損　被熱 |
| 47 | | B | 東1 | 炭1 | 磨 | 粘板岩 | (118) | 49 | (17) | 172.3 | 角・縁欠損・縁一部欠損　磨・研磨3面残る　裏面に擦手あり |

※石材の鑑定は鹿島氏に御教授を得た

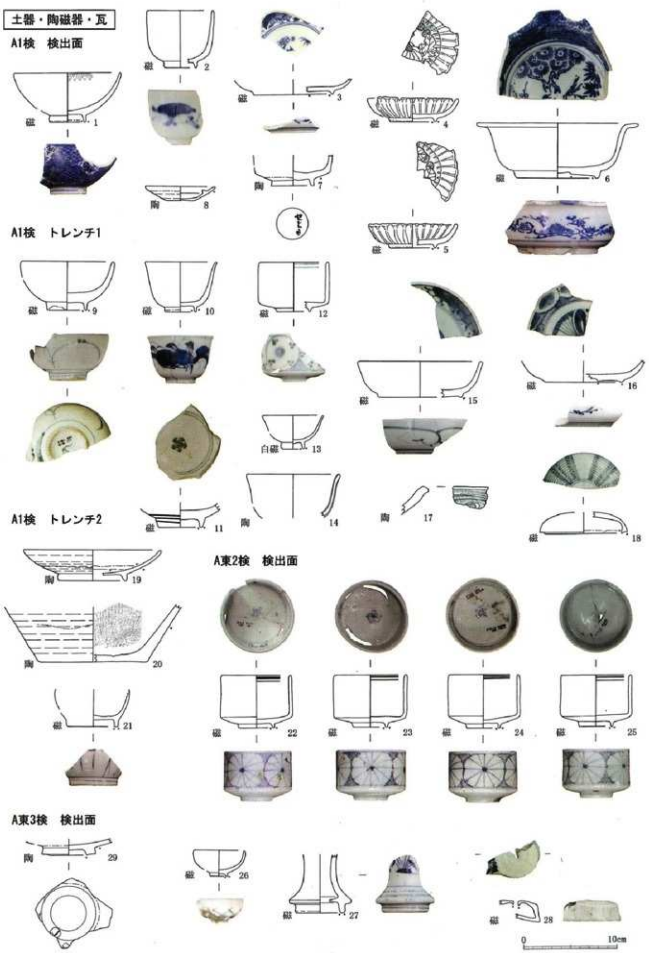
## 第3表　木器一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 検出面 | 遺構 | 器種・器名 | 樹種 | 手法 | 寸法(cm) 残存長 | 幅 | 厚 | 重量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-1 | 盛り箱? | 刺物 | 白樺3.5 | | | | 内外面ともに黒　底面に角切りの痕あり　白樺から下方1.2cmの部に荷重の負荷が一致している |
| 2 | | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-2 | 不明 | 彫刻（線彫） | 30.5 | 2.7 | 3.0 | | 角柱　下方少し太くと上分し細い　上から2.4cm位の所に切り込み有り |
| 3 | 4 | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-3 | 不明 | 刺物 | 残4.5 | 残1.5 | 残1.5 | | 八角形柱　平の部残存して下部はいてある　底面に赤彩を付ち込んでいる　木部は中央の部分のみ残存で固いている |
| 4 | | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-4 | 不明 | 彫刻（線彫） | (14.1) | (4.3) | 0.7 | | 方頭形ウルシ片面赤ウルシ　大鉄部欠　縁面に木釘3ヶ所 |
| 5 | | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-5 | 椀 | 刺物 | | | | | 口縁、高台とも欠損　内外面赤色のウルシ |
| 6 | 1 | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-6 | 椀（面?） | 刺物 | 台部3.4 | | 底部3.4 | 高3.4 | 内外共に黒ウルシ　1/3欠損 |
| 7 | | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-2? | 箸? 抽箸 鋤片 金属 | | 30.6 | 10.1 | 残4.4 | 残3.1 | 使け焼けあり　内面黒ウルシ　外面黒ウルシの上に柴赤のウルシ |
| 8 | | A | 1 | トレンチ1 | A-11横 トレ1-2 | 椀? 箸? | 刺物 | | | | | 残9.6　内面黒ウルシのうえにホウルシ　外面黒ウルシ　使け焼けあり　胴部下方と高部は欠損 |
| 9 | 6 | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-9 | 刀板 | 彫刻（線彫） | | | | | 厚0.4　残6.4　中心に小さな孔あり |
| 10 | | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-10 | 鋤の柄? | 割り出し | (8.6) | | 0.6×0.6 | | 両端欠損　孔の痕跡ウルシ |
| 11 | | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-11 | 不明 | 割り出し | (26.4) | | 2.3×2.1 | | 4個体に大鉄　一端欠損　加工痕を顕める |
| 12 | 8 | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-12 | 下駄（下歯?） | 彫刻（線彫） | 29.3 | 6.2 | 1.2 | | 歯元の無い下駄の台か　1/3の所に厚さ2.6cm位の歯？が欠損した痕あり　そこに台が付けていた　表面中間に1ヶ所ほどが付けていた |
| 13 | | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-13 | 不明 | 割り出し | 22.8 | | 残2.9 | | すん棒の同化形 |
| 14 | | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-14 | 刀柄の柄 | 割り出し | 14.9 | 2.6 | 1.9 | | 表下の欠損あり |
| 15 | 5 | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-15 | 棒 | 割り出し | 3.5 | | 残0.9 | 下部3.8 | 使け焼けあり |
| 16 | 3 | B | 1 | 検出面 | A-11横 検出面-16 | 箸? | | | | 厚2.4 | 残6.7 | 一端欠損　角度不明の歯車 |
| 17 | 7 | A | 東4 | 土2 | A-4石 A横 土2-17 | 孔 | 彫刻（線彫） | 20.9 | 4.6 | 0.8 | | 表裏面共に朱色が塗ってあり　墨書　表面は墨書を塗り潰している　裏側木製か |
| 18 | | B | 2 | 検出面 | A-5横 検出面-18 | 箸 | 割り出し | 25.6 | | 0.6×0.6 | | 二つに折れていて接合可　中央で両端が細くなるタイプ　加工痕あり |
| 19 | 9 | B | 2 | 土2 | A-5石 横 土2-19 | 七夕人形 | 彫刻（線彫） | | 2.9 | 厚5.6 | 残8.5 | 顔は墨書き　頭上につるしの孔　両脇に手のための孔 |
| 20 | | B | 2 | 土2 | A-5横 土2-20 | 小刀 | | | | | | 使合せと思われる破片が表裏出ているが用途は不明 |
| 21 | | B | 1 | 検出面 | B-11横 検出面-21 | 曲片 | | | | | | 両片がずれている |
| 22 | | B | 1 | 検出面 | B-11横 検出面-22 | 下駄 | 彫刻（線彫） | | | | | 歯金下駄の前と台部がばらばらに破損した状態で出土　歯と台部は樹種が違うので同一個体のものかは不明 |

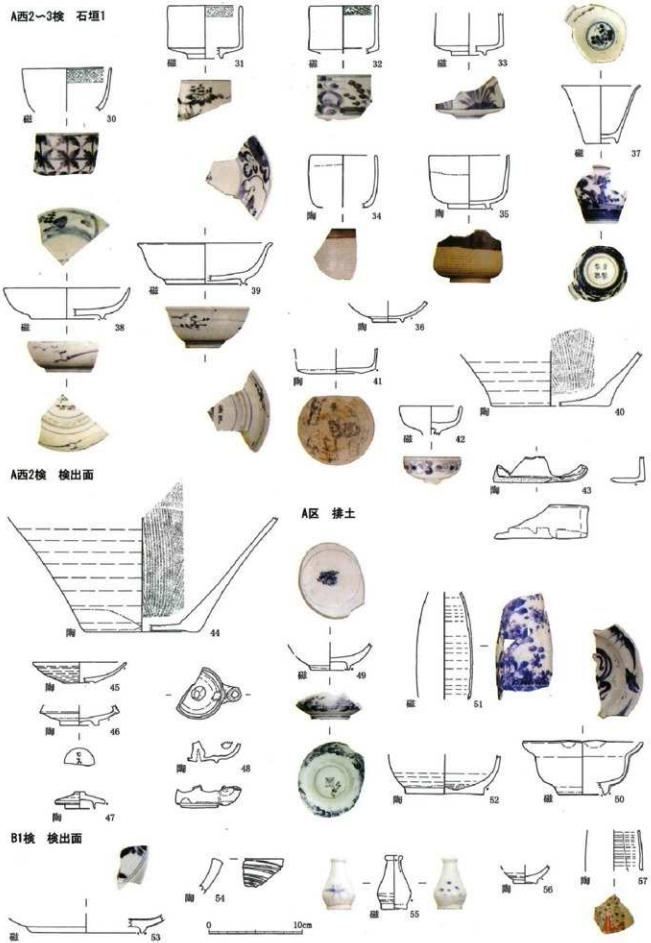
## 第4表　金属器一覧表

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 検出面 | 遺構 | 遺構 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 金属種別 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | A | 1 | トレンチ1 | 鋤先 | 32.6 | 19.3 | 11.2 | 8.3 | 不明 | 鋤被金か　火山灰の下より　刃部欠金 |
| 2 | | A | 1 | トレンチ1 | 針 | 56.0 | 7.8 | 4.9 | 2.1 | 鉄 | |
| 3 | | A | 1 | トレンチ1 | 鋼鎖 | – | – | – | 0.4 | 鋼 | |
| 4 | | A | 1 | トレンチ1 | 釘 | – | – | – | 345.8 | 不明 | |
| 5 | | A | 1 | トレンチ1 | 釘 | 47.9 | 7.2 | 4.7 | 3.6 | 鉄 | 頭部 |
| 6 | | A | 1 | トレンチ1 | 丸口 | 116.6 | 33.6 | 20.3 | 29.1 | 銅 | 口部の外径有 |
| 7 | | A | 1 | トレンチ1 | 鋼鎖 | – | – | – | 1.1 | 鋼 | |
| 8 | | A | 1 | トレンチ2 | 鋼管　頭首 | 20.2 | 16.9 | 11.9 | 2.6 | 銅 | 一端欠損 |
| 9 | | A | 1 | トレンチ2 | 煙管　吸口 | 40.1 | 10.6 | 10.6 | 7.5 | 銅 | 口付銅火種　雁半と思われる木質物残存 |
| 10 | | A | 1 | トレンチ2 | 不明 | 70.7 | 9.6 | 3.8 | 4.4 | 鉄 | |
| 11 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 69.5 | 6.4 | 4.6 | 3.5 | 鉄 | |
| 12 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 61.6 | 5.8 | 5.2 | 3.9 | 鉄 | |
| 13 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 56.1 | 6.6 | 4.4 | 3.3 | 鉄 | |
| 14 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 5.9 | 3.4 | 3.0 | 2.0 | 鉄 | |
| 15 | | A | 1 | トレンチ2 | 針金 | – | – | – | 1.1 | 不明 | |
| 16 | | A | 1 | トレンチ2 | 針金 | – | – | – | 0.9 | 不明 | |
| 17 | | A | 1 | トレンチ2 | 環 | – | – | – | 105.4 | 不明 | |
| 18 | | A | 1 | トレンチ2 | 棒 | – | – | – | 74.0 | 不明 | |
| 19 | | A | 1 | トレンチ2 | 棒 | – | | | 11.0 | 不明 | |
| 20 | | A | 1 | トレンチ2 | 鋼製品片 | 30.3 | 11.5 | 7.2 | 3.8 | 鋼 | 一部欠損　鋼製の豚用あり |
| 21 | 12 | B | 1 | トレンチ2 | 注貫 | 38.6 | 14.6 | 2.9 | 4.6 | 銅 | 銘花・菊花文 |
| 22 | 13 | A | 1 | トレンチ2 | 荒木器管 | 22.7 | 22.7 | 0.9 | 2.6 | 銅 | |

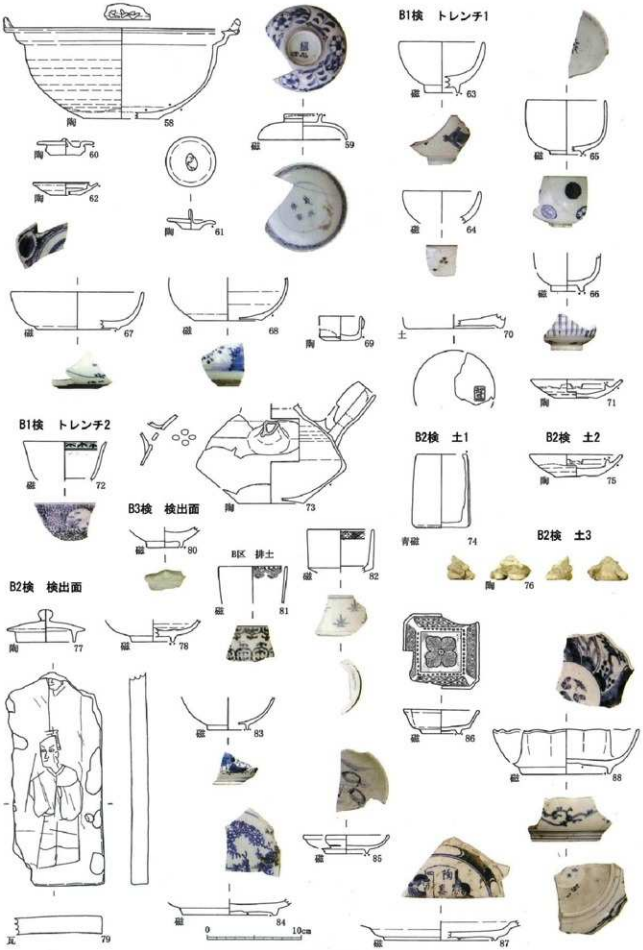
| 19 | 報告番号 | 地区 | 検出面 | 遺構 | 器種 | 最大長(mm) | 最大幅(mm) | 最大厚(mm) | 重量(g) | 金属種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 9 | A | 1 | トレンチ2 | 管 | 75.1 | 7.3 | 4.4 | 2.0 | 不明 | 小型管　つぼみ状の装飾 |
| 24 | | A | 1 | トレンチ2 | 針金 | – | – | – | 1.8 | 不明 | |
| 25 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 112.0 | 6.4 | 5.0 | 10.2 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 26 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 107.0 | 12.9 | 6.6 | 10.6 | 鉄 | |
| 27 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 85.5 | 4.3 | 3.7 | 4.6 | 鉄 | |
| 28 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 77.0 | 7.0 | 5.5 | 6.4 | 鉄 | |
| 29 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 60.5 | 4.7 | 3.1 | 2.9 | 鉄 | |
| 30 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 58.0 | 7.3 | 4.5 | 3.3 | 鉄 | |
| 31 | | A | 1 | トレンチ2 | 釘 | 43.7 | 8.1 | 2.5 | 1.7 | 鉄 | |
| 32 | | A | 1 | 排水溝 | 不明 | 137.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | 鉄 | |
| 33 | | A | 1 | 供水溝 | 丸釘 | 56.2 | 5.5 | 5.0 | 5.2 | 鉄 | |
| 34 | | A | 1 | 検出面 | 不明 | 81.3 | 12.8 | 4.0 | 3.3 | 鉄 | |
| 35 | | A | 1 | 検出面 | 火箸 | 130.7 | 8.5 | 5.5 | 10.1 | 鉄 | |
| 36 | | A | 1 | 検出面 | 釘 | 70.6 | 6.0 | 4.8 | 4.0 | 鉄 | |
| 37 | | A | 1 | 検出面 | 飾板片 | 44.5 | 31.3 | 0.5 | 5.3 | 銅 | 畜面短表あり |
| 38 | 6 | A | 2 | 検出面 | 鞍 | 123.4 | 9.6 | 3.8 | 8.8 | 鉄か | 耳かき鞍　桜花状の装飾あり |
| 39 | | A | 2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.3 | 銅 | |
| 40 | | A | 西2 | 検出面 | 棒状鎖 | 19.0 | 18.0 | 2.1 | 5.3 | 銅 | 火具柄をつぶしたもの |
| 41 | 5 | A | 西2 | 検出面 | 鞍 | 124.0 | 12.1 | 5.6 | 4.0 | 真鍮か | 金鍍金　鉄状の横柄　横柄鳥の彫金　胴部桜花文 |
| 42 | | A | 西2 | 検出面 | 釘 | 31.1 | 6.9 | 3.4 | 0.9 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 43 | | A | 西2 | 検出面 | 釘 | 26.8 | 4.0 | 3.4 | 0.6 | 鉄 | 切り釘 |
| 44 | 2 | A | 西2 | 検出面 | 燈管　雁首 | 41.3 | 17.2 | 16.4 | 4.6 | 銅 | 火具内スス付着　横柄へこみあり(故打によるものか) |
| 45 | | A | 西2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 1.9 | 銅 | |
| 46 | 7 | A | 西2 | 検出面 | 管 | 118.7 | 8.8 | 1.1 | 1.1 | 真鍮か | 蝶番矢摺 |
| 47 | | A | 西2 | 検出面 | 釘状 | 40.2 | 6.2 | 6.2 | 2.3 | 鉄 | |
| 48 | | A | 西2 | 検出面 | 釘 | 55.0 | 8.3 | 6.0 | 2.6 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 49 | 14 | A | 西2 | 検出面 | 寛永通宝 | 22.9 | 22.7 | 0.8 | 2.1 | 銅 | |
| 50 | | A | 西2～3石垣 | 浮 | – | – | – | – | 16.3 | 不明 | |
| 51 | 16 | A | 西2～3石垣 | 寛永通宝 | 23.0 | 25.0 | 1.5 | 4.7 | 銅 | |
| 52 | 10 | A | 西2～3石垣 | 石垣or肥金 | 31.2 | 30.2 | 14.4 | 7.6 | 銅 | 一部欠損 |
| 53 | | A | 東2 | 検出面 | 釘 | 78.0 | 11.4 | 5.3 | 4.2 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 54 | 11 | A | 東2 | 検出面 | 鎖 | 26.4 | 14.8 | 7.4 | 5.0 | 銅 | |
| 55 | | A | 東2 | 検出面 | 飾り金具 | 36.3 | 28.9 | 7.9 | 21.6 | 銅 | 毒花状の飾りを具か |
| 56 | | A | 東2 | 検出面 | 釘 | 65.9 | 12.2 | 15.7 | 3.8 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 57 | | A | 東2 | 検出面 | 釘 | 45.2 | 8.3 | 3.7 | 1.7 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 58 | | A | 東2 | 検出面 | 釘 | 26.4 | 6.8 | 2.4 | 0.7 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 59 | | A | 東2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.8 | 銅 | |
| 60 | | A | 東2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 1.0 | 銅 | |
| 61 | | A | 東2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.3 | 銅 | |
| 62 | | A | 東2 | 検出面 | ピン | 28.2 | 10.4 | 1.0 | 0.4 | 不明 | 張釘意形状 |
| 63 | | A | 東2 | 検出面 | ピン | 24.5 | 9.1 | 0.7 | 0.2 | 不明 | 張釘意形状 |
| 64 | | A | 西2 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.2 | 不明 | |
| 65 | | A | 西2～3石垣1 | 釘 | | 40.2 | 9.8 | 5.3 | 2.6 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 66 | | A | 東3 | 土 | 陶 | – | – | – | 19.5 | 不明 | |
| 67 | | A | 東3 | 検出面 | 鉄 | 24.7 | 17.1 | 1.2 | 2.2 | 銅 | 1/2欠損 |
| 68 | 8 | A | 東3 | 検出面 | 管 | 57.5 | 6.5 | 3.0 | 1.7 | 不明 | 耳かき鞍　銅鍍金 |
| 69 | | A | 東3 | 検出面 | 釘 | 64.9 | 12.8 | 4.8 | 4.6 | 鉄 | 張釘 |
| 70 | | A | 東3 | 検出面 | 釘 | 45.2 | 7.2 | 5.1 | 3.6 | 鉄 | 隅巻釘 |
| 71 | | A | 東3 | 検出面 | 管 | 139.7 | 2.1 | 1.3 | 3.5 | 銅 | 銅鍍金か　胴部のみ |
| 72 | | A | 東3 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.8 | 不明 | |
| 73 | | A | 東3 | 検出面 | 釘 | 34.8 | 3.7 | 3.4 | 1.1 | 鉄 | |
| 74 | | A | 東3 | 検出面 | 寛永通宝 | 22.9 | 22.7 | 1.1 | 2.8 | 銅 | |
| 75 | | A | 東3 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.4 | 銅 | |
| 76 | | A | 東3 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.2 | 銅 | |
| 77 | | A | 東4 | 検出面 | 不明 | 90.0 | 6.7 | 4.0 | 4.2 | 鉄 | |
| 78 | | A | 東4 | 検出面 | 不明 | 54.6 | 5.2 | 5.1 | 4.3 | 鉄 | |
| 79 | | A | 東4 | 検出面 | 不明 | 24.0 | 6.4 | 0.6 | 0.6 | 銅 | 両端間に穿孔あり |
| 80 | | A | 東4 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.2 | 不明 | |
| 81 | | A | | 排水溝 | 釘 | 34.8 | 9.8 | 9.6 | 6.9 | 鉄 | |
| 82 | | A | | 排水溝 | 釘 | 37.0 | 6.4 | 5.1 | 2.0 | 鉄 | |
| 83 | | B | | トレンチ1 | 寛永通宝 | 21.9 | 21.8 | 0.8 | 2.0 | 銅 | |
| 84 | | B | | トレンチ1 | 針金 | – | – | – | 0.4 | 銅 | |
| 85 | 17 | B | | トレンチ1 | 寛永通宝 | 22.6 | 22.6 | 1.0 | 2.6 | 銅 | |
| 86 | 18 | B | | トレンチ1 | 寛永通宝 | 23.4 | 23.3 | 1.1 | 2.9 | 銅 | |
| 87 | | B | | トレンチ1 | 鍋口 | 49.2 | 31.9 | 28.8 | 5.4 | 鉄 | 棒状鉄ねじり成形 |
| 88 | | B | | トレンチ2 | 釘 | 67.5 | 4.6 | 4.1 | 2.4 | 鉄 | |
| 89 | | B | | トレンチ2 | 針金 | – | – | – | 0.7 | 不明 | |
| 90 | | B | | トレンチ2 | 針金 | – | – | – | 2.3 | 不明 | |
| 91 | B | B | 1 | 検出面 | 不明 | 158.7 | 5.1 | 2.2 | 7.5 | 鉄 | 先端二股になっている |
| 92 | | B | 1 | 検出面 | 管か | 46.7 | 2.0 | 2.0 | 1.3 | 鉄 | |
| 93 | | B | 1 | 検出面 | 管か | 45.6 | 2.6 | 2.2 | 1.3 | 鉄 | 一部に油巻き |
| 94 | | B | 1 | 検出面 | 不明 | 27.3 | 16.8 | 0.7 | 0.3 | 銅 | |
| 95 | | B | 1 | 検出面 | 火打金具 | 112.3 | 16.9 | 5.1 | 17.9 | 鉄 | |
| 96 | 3 | B | 1 | 検出面 | 燈管　雁首 | 24.5 | 10.1 | 7.5 | 2.0 | 不明 | 銀鍍金か |
| 97 | | B | 1 | 検出面 | 銅鏡か | 29.5 | 28.4 | 1.7 | 6.8 | 銅 | |
| 98 | | B | 1 | 検出面 | 鞍 | 61.0 | 28.7 | 7.3 | 7.7 | 鉄 | |
| 99 | | B | 1 | 検出面 | 不明 | 84.4 | 82.9 | 5.9 | 64.6 | 鉄 | |
| 100 | 16 | B | 1 | 検出面 | 寛永通宝 | 22.9 | 22.8 | 1.1 | 3.2 | 銅 | |
| 101 | | B | 1 | 検出面 | 針金 | – | – | – | 0.4 | 銅 | |
| 102 | 19 | B | 2 | 埋設遺1 | 寛永通宝 | 23.6 | 23.6 | 0.9 | 1.7 | 銅 | |
| 103 | 4 | B | 2 | 埋設遺1 | 煙管　吸口 | 91.2 | 10.8 | 10.0 | 9.7 | 真鍮か | 表面付着物あり　雁金か　断面6角形 |
| 104 | | B | 2 | 埋設遺1 | 刀子 | 128.6 | 11.9 | 3.0 | 7.3 | 鉄 | |
| 105 | | B | 2 | 埋設遺1 | 釘 | 67.1 | 6.1 | 5.0 | 2.6 | 鉄 | 砂付巻 |
| 106 | | B | 2 | 埋設遺1 | 釘 | 58.0 | 8.7 | 4.0 | 2.2 | 鉄 | 隅巻釘　砂付着 |
| 107 | | B | 2 | 埋設遺1 | 釘 | 55.3 | 11.7 | 5.0 | 6.5 | 鉄 | 砂付巻 |
| 108 | | B | 2 | 埋設遺1 | 釘 | 32.3 | 7.0 | 2.7 | 0.6 | 鉄 | 隅巻釘　砂付巻 |
| 109 | | B | 3 | 検出面 | 釘 | 83.5 | 5.9 | 4.7 | 7.1 | 鉄 | 銅部で折れている |
| 110 | | B | | 掘土 | 針金 | – | – | – | 1.5 | 銅 | |
| 111 | | 試掘 | | トレンチ1 | 不明 | 132.7 | 45.2 | 4.7 | 22.5 | 鉄 | |


土器・陶磁器・瓦
A1検　検出面
A1検　トレンチ1
A1検　トレンチ2
A東2検　検出面
A東3検　検出面
磁
陶
白磁
0
10cm

第８図　土器・陶磁器・瓦（1）


A西2～3検　石垣1
磁 30
磁 31
磁 32
磁 33
磁 37
陶 34
陶 35
磁 38
磁 39
陶 36
陶 41
陶 40
磁 42
陶 43
A西2検　検出面
陶 44
A区　排土
陶 45
陶 46
陶 47
陶 48
磁 49
磁 51
陶 52
磁 50
B1検　検出面
磁 53
陶 54
磁 55
陶 56
陶 57
0
10cm

第９図　土器・陶磁器・瓦（2）




第 10 図　土器・陶磁器・瓦 (3)

試掘　トレンチ1

試掘　トレンチ2

磁 89

磁 90

磁 91

陶 92

磁 93

磁 95

陶 94

0　10cm

石器

1

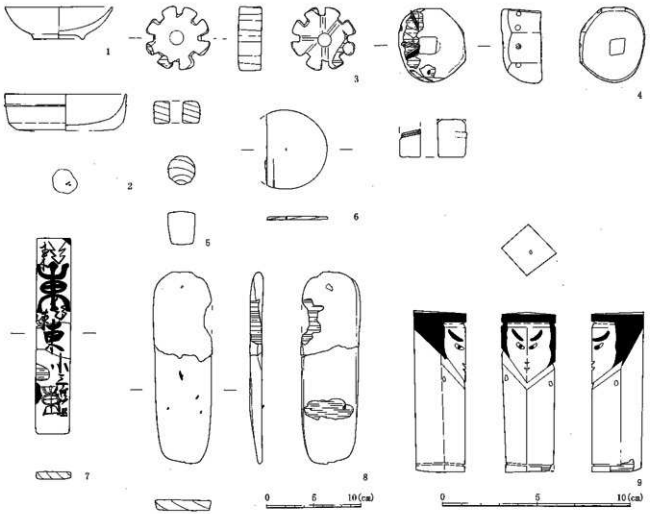
2

3

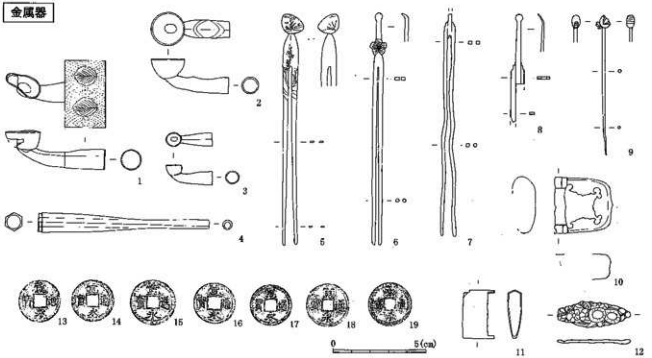
0　10cm

第11図　土器・陶磁器・瓦（4）・石器（1）

木器




金属器




第12図　木器（1）・金属器（1）

A1検 調査区西半 （北から撮影）

A2－3検 石垣1正面

A2－3検 石垣1 （北東から撮影）

A東4検全景 （南東から撮影）

木器7 出土状況

作業風景

B1検西半 （北から撮影）

B2検土坑2 （西から撮影）

25・24・23・22

92

41

46

7

76

石器3

石器NO.2～5

石器NO.1

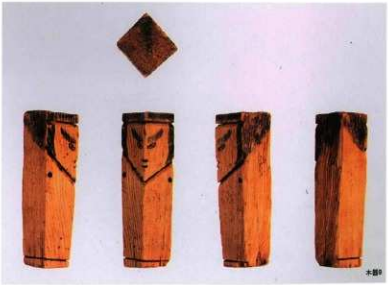
石器1

石器2

金属器5・6・7・8・9

木器7

70



木器9

六日より
軒はに
方なる木にて
めおの
かたしろを
造りて
糸にて曳きはへてけり

左：菅江真澄は『委寧の中路』（天明3(1783)年）の中でこのように記して七夕人形を紹介している。

『日本随筆大成』第2期第20巻
吉川弘文館　1974

上：『於路加於比』に描かれた七夕人形

江戸時代後期の国学者笠亭仙果は入手した七夕人形を描き、「木にて造り刺かしらとも二寸九分足も木にて脚にさしこむ長二寸程」と説明している。

『菅江真澄民俗図絵』上巻　岩崎美術社　1989

報告書抄録・奥付

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | ながのけんまつもと　まつもとじょうかまちあとちゅうだまち　だいにはっつつじょうはほうこむしょ | | | | | | |
| 書名 | 長野県松本市　松本城下町跡飯田町　第1次発掘調査報告書 | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 松本市文化財調査報告 | | | | | | |
| シリーズ番号 | No.202 | | | | | | |
| 編著者名 | 小山貴広、三村竜一 | | | | | | |
| 編集機関 | 松本市教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒390-0874　松本市大手3丁目8番13号（3F）　TEL(0263-34-3000（代） | | | | | | |
| | (記録・資料保管：松本市考古博物館　松本市中山3738番地1　TEL(0263-86-4710) | | | | | | |
| 発行年月日 | 2010(平成22)年3月29日(平成21年度) | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | 市町村コード | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | | | | | | | |
| まつもとじょうかまちあと　ゆいのまち<br>松本城下町跡　飯田町 | ながのけんまつもとしちゅうおう<br>長野県松本市中央 | 202202 | 157 | 36°13′59″ | 137°58′15″ | 20080414<br>～20080613 | 135.12㎡ | 病院建替え工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 松本城下町跡　飯田町 | 町屋跡 | 近世～近代 | 土坑76基　開口石列4基　石垣1基　埋設甕1基 | | 土器・陶磁器、瓦、石器、金属器、木器 | | 七夕人形が出土した |
| 要約 | 松本城下町跡飯田町の北端付近にあたる箇所である。近世から流れる鉈川溝を挟んでの調査となる。鉈川溝南にあたるAEC区では江戸後半期に属する建物基礎と思われる石垣及び礫群が検出された。鉈川北側のBDC区では松本地方特有の七夕人形が出土し、近世期における風習を探る上で貴重な資料を得ることができた。また、両区共に攪拌ないし入れ替えによる整地がされていたと考えられ、湧水地での整地の方法を考える上で重要な資料となった。 | | | | | | |
| 印刷所 | 株式会社　二光印刷 | | | | | | |